

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学び合い、認め合い、共に高め合う児童の育成
- 主体的な学びで確かな学力につなげる授業改善の在り方

津乃峰小学校
「学力向上実行プラン」

【小中連携または中高連携における共通の取組】

児童・生徒の主体的な学びを展開するため、ICTを積極的に活用した授業実践し、互いに参考となる実践を共有する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長 外山真寿美 教頭 山中正広 教務主任 西東秀城 研修主任 得野真琴 平山 美久 特別支援コーディネーター 笹田由美 丸山さやか 人権教育主事 久米和美
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------

校長

外山 真寿美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 落ち着いて学校生活をおくり、学習のきまりを守って課題に取り組むことができる。 ● 語彙が少なく、文章や問題を読み取る力が低い。	・ 読書を楽しみ、語彙を増やしたり要点を押さえて文章や問題を読み取ったりすることができる。 ・ 学んだ知識や技能を他の学習場面や生活の中で活用することができる。	・ 要点を捉えた読み取りのために、アンダーラインや書き込みの入れ方のポイントを押さえた指導を行う。 ・ 文章を要約する活動を取り入れる。 ・ 辞書や「言葉のたから箱」を利用するとともに、読書活動の推進を行う。	・ 文章を読み、見出しやタイトルを考える活動を行う。 ・ 学級文庫の入れ替えを行うとともに、学習に関する本を学級に置くなどし、多様な資料から情報を収集する経験を積み重ねる。	・ 学級文庫の入れ替えを行うとともに、学級担任が各学年の実態や学習内容に合う本を選び、整備することができた。 ・ 要点を押さえることはできるが、自分の考えや思いを表現するための語彙が足りない。	・ 週末読書やモジュールタイムに読書や読み聞かせを行うなど、読書の時間を設ける。 ・ 国語辞典に触れる機会を増やす。 ・ 振り返りの時間に書く活動を取り入れる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 教師や友達の話をしっかりと聞くことができる。 ● 発問の意図を読み取り、自分の考えを発表することが苦手である。	・ 自分の思いや意見をしっかりともち、相手に伝えることができる。 ・ 互いの意見を出し合い、多様な考えを認め合うことで、みんなでよりよいものを生み出そうとすることができる。	・ 読書や文章を読む活動を通して、内容や心情を読み取る機会を増やす。 ・ タブレットやホワイトボードなどの技能を高めつつ、効果的に使用し、互いの意見を共有したり表現したりする場面を増やす。 ・ 意見の練り上げを促す授業展開を行う。	・ 示された観点・言葉・表現や指定された字数などの条件に即して書く活動を設ける。 ・ 答えだけではなく、図で表すなどして自分の考えを表現する。 ・ 子ども新聞を活用し、興味のある記事をノートにまとめたり、朝のスピーチに取り入れたりする。	・ 話し合いの場を多く設けることで、多様な意見に触れ、考えを深めることができた。 ・ 体験後に感想を書く・読む活動を行うことで、書き方のモデルケースがわかってきた。 ・ 自分の考えをキーワードだけで表現し、論述するまでに至っていない。	・ 伝えることはできているが表現力に課題があり、語彙力をつける必要がある。 ・ 多様な情報に興味をもてるように教材を提示する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ 課題に対し、素直に取り組むことができる。 ● 学習内容や活動状況に合わせて、見通しをもって、主体的に取り組むことが難しい。	・ 主体性をもって、各教科の学習や家庭学習に取り組むことができる。 ・ 自ら疑問や課題をもち、解決しようとする態度が身に付いている。	・ 「家庭学習・自主学習の手引き」の指導を丁寧に行い、新聞や図鑑等を利用して主体的に考え学習しようとする意欲を伸ばす。 ・ 子どもの疑問を大切にして授業展開をするとともに、「できた」「分かった」と達成感をもてるようにし、次時の意欲につなげる。	・ 教師が説明するのではなく、つまづきを問いつける。 ・ 「なぜ」という疑問について子どもが考える時間を確保する。 ・ ペア学習やグループ学習を積極的に進める。	・ 読書や体験活動を通して、課題解決に取り組む態度は育ってきている。 ・ 家庭学習はできる子とできない子の個人差があり、学力の2極化が課題として残る。	・ 子どもたちの努力や成果を認める場を多く設ける。 ・ 引き続き体験活動をたくさん取り入れることで、主体的な態度を育てていく。 ・ 教師が自主学習のポイントなどを伝え、モデルを示す。

令和5年度 学力向上ロードマップ

